

1 単元 大造じいさんとガン

2 目標

自分の好きな場面の朗読を発表し、感想や意見を伝え合わせることで、さらに工夫した朗読ができるようになる。

3 情報の交流を行う場面と期待される効果

自分の思いや考えが伝わるように工夫した朗読を互いに聞き合うことで、情報の交流を行い、互いの伝えたい思いや伝えるための工夫の違いに気付かせることができる。その互いの違いへの気付きから、朗読に対する意欲をさらに高め、より工夫した朗読を行うことができる。

4 実践の様子

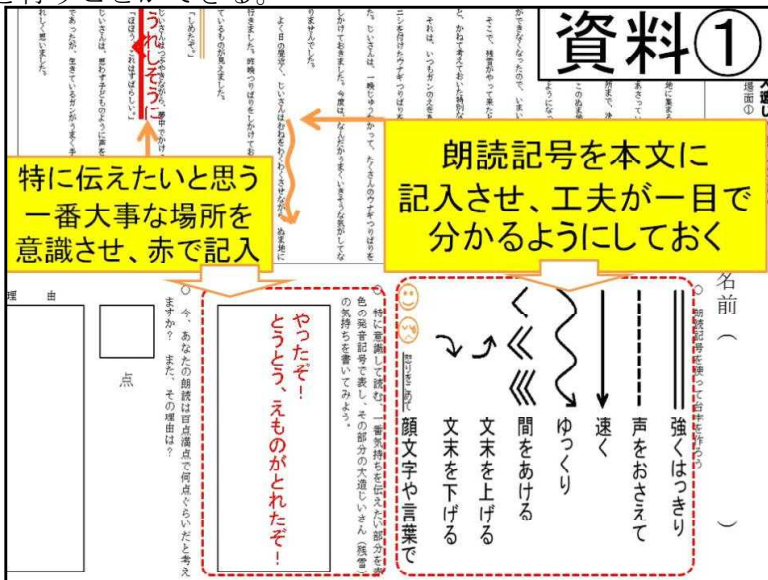
「大造じいさんとガン」を場面ごとに分け、ワークシートで読み取り活動を行った。

ワークシートには、登場人物のその時の気持ちや情景描写、その場面での大事な言葉などを記入させ、後で振り返るときに、その場面の学習が一目で分かるようにした。

すべての場面の読み取り活動が終わった後、自分が好きな場面の朗読を行うことを伝え、自分なりの思いや工夫をこらした、朗読台本作りに取り掛かった。

読み取りのワークシートを参考にしながら、どのように読むと自分の読み取った気持ちが伝わるか、朗読の工夫をさせていった。

その際に朗読記号を紹介し、本文の横に直接記入させることで、どのように読んでいくかが、一目で分かるようにさせた。また、ここだけは絶対に伝えたいと思う一番大事な箇所を決めさせ、その部分は赤で記入させるようにした。【資料①】



そして、実際に班ごとで互いの朗読を発表し合った。発表を互いに聴くときには、聞き取り用のワークシートを渡しておき、発表の工夫を聞き取って朗読記号を記入させた。友達の朗読を聞きながら、「今、間をあげていたな」「ここは強く読むようにしているんだな」と、気付いた工夫点を書き込んでいった。そして、どの部分が一番気持ちが伝わったかを相手に伝えるようにした。



それぞれの朗読発表が終わる度に、互いの感想を交流し合わせた。互いの読み方の工夫や感じ方の違いについて気付き、互いのよさを認め合ったり、アドバイスし合ったりする姿が見られた。【資料②】

互いの朗読発表会が終わった後に、再度自分の朗読台本の見直しを行った。友達のアドバイスや、友達の朗読の良かったところを自分の朗読に取り入れてさらに工夫し、自分の思いが伝わるような朗読ができるようになった。【資料③】



5 成果と課題

- 互いの朗読を聞き合う活動を行ったことで、互いの朗読のよさや読み方の違いに気付かせることができた。
- 気付いた互いのよさを自らの朗読に生かし、自らの朗読をより工夫させることができた。
- 互いの朗読を聞き合うときに、聞きながら工夫を記入させていくのは、活動の時間的に無理があった。朗読をすべて聞き終わった後に、はっきりと覚えているところだけ記入させることで、重要なポイントを聞き逃がすことなく発表を聞くことができたと思われる。